

# NMT 国臨協関信

HP アドレス : <https://kanshinshibu.org>

関信支部ニュース第 223 号 令和 3 年 1 月

- 事務局 / 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1  
国立国際医療研究センター病院  
中央検査部門内
- 発行者 / 岩崎康治
- 編集委員 / 若林弘 屋林朝仁 中嶋菜緒美
- 印刷所 / 一喜堂印刷 ☎0268-35-2624

## 国立病院臨床検査技師協会関東信越支部 支部長 岩崎 康治



新年おめでとうございます。  
国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

一昨年の終わり頃より沸々と広がりを見せ、昨年の春には世界各国そして日本でも流行し日常生活を一変させた新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症ですが、収まる気配どころか第2波、第3波と感染者数の増加となり、私たち医療従事者の環境にも大きな影響を及ぼしました。会員のためにと活動を模索してきましたが、ほとんど何もできない状態となり皆様方には大変申し訳ないと思っております。そのような中でもご支援とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

関信支部会員数は会費納入時 676 名 (昨年度 660 名) で、その後新規入会者や退職者もあり令和 2 年 11 月現在 673 名となりましたが、本年度も過去最高の会員数を更新いたしました。ひとえに各施設の組織力の賜物と感謝申し上げます。

一昨年は新天皇の即位があり慶祝ムードにあり、昨年の新春には「今年は災害のない喜ばしいニュースだけの一年となるように祈るばかりです。」と挨拶させていただきましたが、年頭から COVID-19 の話ばかりで、他に何が起きていたのかも思い出せないほどだったのではないのでしょうか。ひとつ挙げるとするならば、東京オリンピック・パラリンピック 2020 が今年に延期になったことでしょうか。しかし、それも本当に開催されるのか、開催できるのか不安を抱いている方が大勢いらっしゃるのではと思います。

行動の自粛や制限がもたらすストレスと施設での対応によるストレスと、今までにない経験で一種の災害に見舞われている感覚さえ覚えてしまいます。終息または治療薬の開発、供給によって本来の意味で「With コロナ」となることを願うばかりです。

関信支部活動としましては、総会から研修会はもちろんのこと学会に及ぶ全ての行事において中止または形式を変えての開催となりました。新潟で開催予定だった第 74 回国立病院総合医学会が Web 学会となり、関連会議と合同懇親会で幹事支部としてお世話するはずでしたが、これも全て中止になり、各地区会の総会研修会も 10 地区全てが中止に追い込まれるなど、未曾有の出来事となりました。

活動が再開されるようになりましたら、今まで以上に連携を密にしながら支部活動を充実させ、そして地区会との連携を密にしていきたいと思っております。それまでは、「何ができるのか」、「どのようにしたらできるのか」を念頭に会員皆様に応えていきたいと思っております。

少しずつでもスピーディーに且つ会員皆様のために有意義な活動を進めていけるように、国臨協本部、技師長協議会、臨床検査専門職および各地区会のご支援ならびにご指導をいただきながら、役員一同運営していきたいと思っております。

本年も会員皆様方にとって素晴らしい年になりますことを祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いたします。

# 新年の御挨拶

## NHO 関東信越グループ

## 医療担当臨床検査専門職 北沢 敏男



謹んで新春をお祝い申し上げます。  
国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

日頃より多くの方々から励ましの言葉やご助言、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。また、単身赴任や遠距離通勤、ご家族揃っての転居など、ご苦勞頂いていることに対して心より感謝いたします。

昨年を思い返すと、新型コロナウイルスの流行に尽きるといって過言でないでしょう。自分が生きている間に、このような状況に身を置くことになるとは想像さえできませんでした。生活スタイルがすっかり変わり、関東信越グループ、国臨協関信支部を始め、集合型研修や懇親会などがごとごとく中止となり、大変残念でした。今年度入職された皆様には、横のつながりを作るきっかけが無く、申し訳なく思っております。

そんなマイナスイメージばかりが先行してしまっていますが、検査室においては PCR 検査が一気に浸透し、新たな展開をみせました。臨床検査技師にとって、遺伝子検査のみならず、タスクシフティングの一環として鼻腔咽頭拭いの検体採取に取り組みきっかけともなりました。まさに、第四期中期計画の「変革期」を体現していると思えます。職員皆で力を合わせ、新たな検査室を構築していきましょう。機構本部では、研修が新たな開催形式で実行されています。グループにおいても果敢に攻めていかなければ、と思っております。

各地区会につきましても軒並み中止となり、皆様と直接お会いできなかったことが残念です。また、情報発信が疎かになってしまったことを心よりお詫び申し上げます。会員の皆様との関係も、新たな方法で、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。今後も微力ながら職務を全うできるよう努力して参ります。本年もどうぞよろしくお願申し上げます。



# 新年を迎えて

## 茨城地区会会長 久間 修平



明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。関信支部会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。今年も茨城地区会をよろしくお願い致します。

昨年6月の地区総会において前会長より引き継ぎました。茨城地区会は三施設で、昨年までは学術集会やレクレーション等の参加者も多く、地区会の懇親を含め活発に活動しておりました。しかしどの地区会もそうでしょうか新型コロナの影響で地区総会においても書面でこなりました。

本年は一日でも早く地区会の各種行事を遂行できることを切に願うばかりです。

最後になりますが、本年も関信支部の発展と会員皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 栃木地区会会長 瀬下 明子



明けましておめでとうございます。栃木地区会を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の蔓延により栃木県でも地区会の行事を行うことができませんでした。正直面倒と思っていた時もありましたがいざとなると通常開催できた事の良さを感じます。失ってから初めてそのありがたみに気づくのはいつも同じなのですが、職場でも日々変わる状況への対応に頭を悩ませ、初めての事に皆で考えその都度対応しあっという間の1年でした。今の言葉で言うと全集中の状態でしょうか。言葉と言えば新しい言葉がたくさん生まれました。3密、ソーシャルディスタンス等。不要不急という言葉にも何が不要か議論になっていました。無駄なものなど無いと思いますが複雑な心境でした。人は恐怖と不安に支配されると正気を失うのだという事も学びました。ただし会議などもリモートで行えるなど新しい可能性も示唆する興味深い経験もしました。これからも何が起るかわかりませんが皆で力を合わせて乗り越えて行く事に変わりはなく一人一人の力は本当に偉大だと思います。大切にしていくものは何なのか常に見つめて誠実でありたいと思います。

最後に関信支部の皆様のご健康とご活躍を祈念し、新年の挨拶と致します。

## 群馬地区会会長 金子 司



新年おめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて昨年の群馬地区会の活動ですが、新型コロナウイルス感染拡大のため、すべての事業が中止となりました。群馬地区会総会も11月に書面決議による審議となり、今までなかったことですが、他病院の地区会員とは一度も顔を合わせることなく、一年が過ぎました。現在も新型コロナウイルスは日本全国で感染拡大しており、今年度の事業活動も遂行できるか不透明な状況ですが、会員と意思疎通を図りながら、会務を進めたいと思います。

今まで市中病院の検査室ではウイルス検出の遺伝子検査はあまり普及していませんでしたが、今回の感染症で、検体採取の実施や遺伝子検査装置を導入し、慌ただしく、また緊張感を持ちながら検査に対応している施設も多いことと推察します。前向きに捉えれば、検査技師の業務レベルがワンランクアップしたと言えます。引き続き多くの技師がこれら検査の熟達者になることが期待されます。また、会議や研修会、学会などはWeb開催が主流となり、コロナ禍で新たな日常となりました。個人的に学会はオンデマンドで視聴できるため、利便性を感じる部分もあります。

今年は、新型コロナウイルス感染症がある程度収束に向かい、国臨協関信支部会員の皆様と研修会や学会、ビアパーティーなどでお会いできることを願っています。コロナの話題ばかりで申し訳ありませんでしたが、今後とも群馬地区会に対しまして、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

最後になりますが、本年も国臨協関信支部の益々の発展と会員皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

## 埼玉地区会会長 小沼 進吉



新年おめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年9月の第7回定期総会（書面表決）において会長の大役を仰せつかりました。埼玉地区会は4施設47名の会員となっております。10月には第1回理事会をメール会議とし開催いたしました。役員も新たに事業方針に則り進めていきたいところではありますが、国内外を問わず新型コロナウイルス感染症の猛威はとどまるどころを知らず、11月に入り連日の国内最多感染者数となり冬の第3波が押し寄せました。皆様におかれましては十分な感染対策と行動自粛が続く中、日常の業務に私生活にと苦慮されていることと推察いたします。いずれも集合形式での活動は困難な状況

ですが、連携を密にとり情報交換しつつ会員の学術・技能の向上と施設相互の交流・親睦を図る目的の達成に向け地道に進めていく所存でございます。

最後に、本年が関信支部会員の皆様にとって素晴らしい年になりますよう心より祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

### 千葉地区会会長 林 亮



コロナ禍の終息が見通せない中、“新年おめでとう”と申し上げて良いものか迷いましたが、明るい年になる事を祈念し、新春のご挨拶申し上げます。会員の皆様におかれましては、お忙しい毎日をお送りの事と存じますが、“新年おめでとう”でございます。

さて、新型コロナウイルスの影響は病院経営にも大きな陰を落とし、医療従事者への負担も非常に大きくなっています。暗い話題が先行する状況ではありますが、反面、臨床検査部門にとっては明るい未来へ繋がる可能性もあると考えています。遺伝子検査や鼻咽頭検体採取などの報道でも臨床検査技師が度々取り上げられ、施設内の新型コロナ対策においては重要な部門となっています。実際に採取現場に携わってみますと、鼻咽頭ぬぐい液の場合では鼻腔底に沿って、しっかり奥まで挿入し、10秒程度保持する動作が的確に行われていない事例も散見され、精度を担保する上で、検査技師による的確な採取や採取指導の重要性を改めて感じました。今の頑張りが検査部門の明るい未来を切り拓くと信じ、新型コロナ対策に積極的に取り組んでいただければ幸いです。

千葉地区会の事業については、やはりコロナ禍の影響は大きく、昨年度予定していました総会・研修会及びレクリエーションの開催は中止を余儀無くされ、総会は書面表決により決議しております。今年度の事業においても参集型イベントの開催は厳しい状況となっておりますが、With/After コロナの時代に即した事業活動を念頭に役員一同取り組んで参りたいと思います。

最後になりましたが、本年が会員皆様方にとって素晴らしい年になりますよう祈念申し上げます。

### 東京地区会会長 峰岸 正明



明けましておめでとうございます。関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年はこの検査室も COVID-19 に振り回された年であったと思います。COVID-19 により各種研修会や学会は中止または Web 開催となりました。地区会においても会員が集まり顔を合わせての文化活動や研修会は中止、定期総会も集合しては出来ず書面表決となってしまいました。検査の現場では、COVID-19 検査を導入した施設も多くあったと思いま

す。ここに関しては、検査技師の活躍の場が広がり良かったと思いますが、PCR 検査では神経をすり減らして業務をしていることと思います。そのうえ仕事を思うとカゼもひけず、元気いっぱいではなくはなりません。さらにプライベートな時間においても、TV をつけると COVID-19 の患者数の発表とどこを向いても COVID-19 一色で、初夢にも COVID-19 が出来た方がいたのではないのでしょうか。COVID-19 禍により悪いことばかりではなく少しは良いことも、検査室に PCR 検査装置やそのことに関係する検査機器が整備できた施設もあったと思います。

東京地区会は、このような時だからこそ出来ることをやろうと考えて理事会をオンライン形式で、Teams を使って開催しました。交通費をかけて集まらなくても会議ができることはいいのですが、自分の顔がモニターに映し出されているのは、なかなか慣れませんでした。(カメラをオフにすればいいことですが。) オンラインによる会議は技師長協議会で進める方針が示されていましたが、COVID-19 により一段と早く進んだ印象です。

ともかく今年中には COVID-19 という暗いトンネルに光が差し込み、さらに抜け出せることを願いつつ新年の挨拶とさせていただきます。

### 東京・山梨地区会会長 佐藤 成彦



新年おめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては希望を抱いた年始をお迎えのことと思います。令和3年の年頭にあたり、東京・山梨地区会を代表しまして一言ご挨拶を申し上げます。

東京・山梨地区会は151名の会員を誇り、今年度の各施設理事は東京医療センター：菅原事務局長・手塚理事、国立国際医療研究センター病院：小沼理事、国立成育医療研究センター：柳澤理事、甲府病院：秋山理事、村山医療センター：中野理事で活動を行っています。今年の文化活動は3月に「甲府病院の見学ツアー」を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染防止対策の為に中止、それ以降も7月の研修会・懇親会を中止し同時に開催する総会も電子決議で行われました。また会員同士が集う活動は一昨年の研修会を最後に開催されておりません。このような状況ではありますが、OneDrive を使用した理事同士の連絡を頻繁に行うことで、新人会員の紹介や各施設の現状を会員へ発信できればと思います。各施設で新型コロナウイルス対応および通常診療に奮闘している会員に対して、情報共有の一助となるように頑張っております。よろしくお願ひ致します。



## 神奈川県地区会会長 蓮尾 茂幸



明けましておめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

神奈川県地区会は新型コロナウイルスの影響で第39回定期総会が中止となり、書面決議において今年度の事業方針、新役員の承認が得られました。5施設69名の会員が在籍する神奈川県地区会に私も昨年4月に仲間入りし、初めての神奈川県ということで研修会、文化活動を楽しみにしておりましたが、すべて中止となってしまい非常に残念でした。

さて、去年は、各施設において新型コロナウイルス対策に奔走した1年だったと感じております。PCR検査の整備においては施設の特性に合う分析装置はどれを導入すれば良いのか！スタッフまたは家族が発熱した！学校の一斉休校！などなど、気が休まることがなかったのでしょうか。

今年も、新型コロナウイルスの動向が気になるのですが、この影響により集合型の学会開催が難しい状況となっており、昨年の新潟で開催される予定であった国立病院総合医学会のように、Webによる開催が多くなってきています。そこで、学会で発表したいけど人前で話すのが苦手な方は、この機会を利用してはいかがでしょうか。3密になるため、なかなか外出の自由がきかないこの時期に、自分自身で日頃の業務成果をまとめてみるのも良いかもしれません。

今年には神奈川県地区会、集合型の文化活動や研修会の開催見込みが立たない今、Webを活用して会員および施設相互の親睦をいかに深めることができるか、知恵を出し合いながら考えていきたいと思っております。

最後になりましたが、この新しい年が関信支部会員の皆様にとりまして、より良い年になりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 新潟地区会会長 中村 茂



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスが全世界的に猛威を振るい（現在も進行形ではありますが）、日本国民が期待を寄せていた東京オリンピック・パラリンピックが延期になるなど新型コロナ一色の年でした。日本において企業は「テレワーク」、「Web会議」、また多くの大学は「オンライン授業」、おまけにプライベートでは「オンライン飲み会」等々、今までにない新しい社会生活の形に移行する元年がかつてないスピードで訪れた年でなかったでしょうか。

検査業界において、流石にテレワークは無理にしても会議・勉強会等の多くはオンライン利用が主流となりました。さらに、一部の施設でしか利用されていなかったPCR検査が多くの病院で導入（予定）されるなど、新型コロナウイルスの影響は甚大でした。

新潟県に目を向けると去年は第74回国立病院総合医学会が開催されるという大事な年でした。一時は開催が危ぶまれましたが関係者のご尽力で国立病院総合医学会としては初のWeb開催となり盛会裡に会期を終えることができました。この成功は今後の学会運営の一つの形を示せたと思います。

今年、新潟地区会としてはコロナ禍の中で従来のように会員相互の親睦、そして学術の向上を如何にして行えるか新たなモデルを模索していきたいと思っております。

最後になりますが、関信支部の発展と会員の皆様ご健康とご活躍を祈念申し上げまして新年の挨拶とさせていただきます。

## 長野地区会会長 沼田 ますみ



明けましておめでとうございます。

長野地区会を代表いたしましてご挨拶

申し上げます。昨年はコロナ禍の渦中、関信支部会員の皆様方には大変な努力とご苦勞があったことと存じます。このような情勢を越え新しい年を迎えられたことに謹んでお喜び申し上げます。昨年は地区会行事等も見送る中、世間ではGoToトラベルやGoToイートなど社会的な支援援助もあり、感染者の動向に向きあいながら各施設COVID-19対応に追われていたことと存じます。そのような中で非集合型での第48回国臨協関信支部学会が行われましたことは、テーマである「実践～新時代に挑む～」のごとく変動していく状況の中、これからを担う若手技師たちの情熱が感じられる内容でもありました。昨年は各種学会や集会、研修会や講演会などWEB型が中心となり、今年も同じような形式が続くと思われます。人それぞれが気軽に触れ合う機会が減り、その中で交流をいかにすべきかが今後の課題であり、ネット上での誹謗・中傷など社会的にも法改正への働きかけがある中、いかに誤解を招くことのない発信ができるかを考えていかなければならないと思っております。東京オリンピック開催等もどうなっていくのか…、新しい年が少しでも早く新型コロナウイルス感染の終息を迎えることを願ってやみません。

最後に関信支部役員ならびに会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。



# 集まれ 若手技師

How about your work ▶▶

## NHO 霞ヶ浦医療センター 大塚 美咲



霞ヶ浦医療センターに勤めている大塚美咲です。出身地は茨城県です。専門学校を卒業後、2年間は機構本部の総合研究センターという臨床研究に関わる部署でデータマネージャーとして勤務していました。その後水戸医療センターで3年半、現在は霞ヶ浦医療センターに配属されてもうすぐ3年目を迎えようとしています。

水戸医療センターでは検査科と治験管理室との併任であったため血液検査を担当しながら治験コーディネーターとしても勤務していました。治験の知識がほとんどない状態での配属に最初は不安で押しつぶされそうだった記憶が今でも思い出されます。また、検査科との両立というプレッシャーも重なり、緊張と不安でいっぱいでした。そのような状況の中、先輩方が自分の経験したことを追記したマニュアルを用いて1つ1つ丁寧にアドバイスやサポートをして頂き、治験の立ち上げから患者さんの対応まで1人で行うことが出来るようになりました。

治験コーディネーターを通して、患者さんや医師、関連部署との調整役としての重要性やコミュニケーション能力の向上の必要性を肌で感じる事が出来ました。また、疾患や薬の知識も増え検査科での業務にも役に立つことが多く、とても貴重な経験でした。

現施設では主として検体検査を担当しています。検体検査室では生化学・免疫、輸血、血液検査、採血業務と幅広く検査を担当し、人員が不足している際は他の分野をカバーしながら業務を実施しているため、いかに効率よく行えるか常にタイムマネジメントを意識しながら日々研鑽を重ねています。

血液検査以外の経験がほとんどありませんで

したが、キャリアパス業績評価チェックシートにて前回よりも評価が上がることでモチベーションも向上しました。また、自身の弱い部分に関してはアプローチ方法を考え、その改善策が評価者と一致したとき、少しは技師として成長したなど感じています。

輸血検査技術や骨髄像鏡検のスキルアップを目的に、積極的に他施設へ研修に行かせていただきました。自施設では経験できないことや認定技師の方に直接指導していただいたことで、技術・知識ともに向上することが出来ました。最近は生理検査の勉強も始めており、様々なことに取り組める環境が整っていて恵まれていると感じます。

当院でも9月よりSARS-CoV-2遺伝子検査が開始されました。現在、検査科全員が検査できるよう研修をしています。新型コロナウイルス感染の拡大により、当院でも臨床検査技師の重要性が高まっていることを感じる事が多くなりました。安倍前首相の「臨床検査技師の皆さんに、日本国民を代表して、心より感謝申し上げます」の発言を聞き、誇らしい気持ちになりました。

検査結果から治療方針を決めている医師の姿を見ると、検査技師側からも情報を伝えることでチーム医療ができる自分の業務にやりがいを感じ、改めて検査技師になってよかったと感じます。

まだまだ知らないことが多く毎日が勉強ですが、知識や技術を追求して資格取得を目指したいと考えています。





# 認定資格で LEVEL UP



## 目指せ二級臨床検査士 (免疫血清学)

NHO 相模原病院  
井田 貴明



一昨年、日本臨床検査同学院の「二級臨床検査士 (免疫血清学)」を受験いたしました。二級臨床検査士の免疫血清学は他の科目に比べて受験者数および合格者数が少ない科目になります。そんな免疫血清学を受験しようと思ったきっかけは、2018年度に国臨協関信支部の学術委員会検体検査部門血清担当に指名されたことです。

当時の学術委員は前身のRAの方々で構成されていて、代理で出席した第1回国臨協関信支部学術委員会部門長会議では「資格も取得していない自分がなんてところに出席してるんだ」と思ったほどです。しかし同時に並び立てる様に自身も精進しなければと心に湧き上がるものを感じ、二級臨床検査士 (免疫血清学) の取得を目指しました。資格試験を取得するにあたり私が参考にしたのは「免疫検査学 (医歯薬出版)」、「二級臨床検査士・緊急臨床検査士資格認定試験問題集 2002-2006年版 (医学書院)」、「4号免疫血清学テキスト (日本臨床検査同学院)」、「輸血・移植検査技術教本 (日本臨床検査衛生検査技師会)」、「スタンダード輸血検査テキスト (医歯薬出版)」の5つの教本になります。わたしは免疫検査学と資格認定試験問題集は、学生の時に購入したものを使用しましたが新たに勉強される方々におかれましては、改定された最新版を使用することを推奨いたします。資格試験の内容に関して筆記試験は資格認定試験問題集を数年分やり込めば問題なく通過できると思います。免疫血清学には輸血の項目がすべて含まれるので試験対策として過去に出題された範囲を教本で勉強すると筆記試験の点数を引き上げられると思います。

実技試験の内容ですが大きく分けて輸血検査・梅毒検査・抗核抗体検査・免疫電気泳動法の4つになり、すべて並行して試験を実施します。はじめに輸血検査ですが6つの検体が配られています。その内5検体に血液型検査を実施して結果を記入します。RhDの解答については「+」や「-」ではなく「陽性」または「陰性」と記載し

ます。RhD陰性の場合には必ず血液型のオモテ・ウラを含めた再検査後にD陰性確認試験を実施して、結果を記載しなければ減点になります。また6つ目の検体は交差適合試験の患者検体となるので、こちらにも血液型検査を実施後、先に述べた5検体から血液型の適合する供血者をすべて選択して交差適合試験を実施します。試験管の本数は血液型の再検査を含めてバランスで使用する2本しか残りませんので注意が必要です。ここまでの過程をすべて用手法で行うので、受験までに試験管の傾け方や洗浄の練習をしておくことを強く推奨します。次に梅毒検査ですがRPRカードテストおよびTP抗体検査 (イムノクロマト法) を実施します。この2つの実技に関しては市販されているキットを使用して、説明書を読みながら実施できるので、よく読んで実施できれば問題ないと思います。また梅毒の結果に対する解釈についても記述形式でありますので、書けるように勉強しましょう。抗核抗体検査および免疫電気泳動法の実技はなく、記述問題のみになります。抗核抗体検査は染色型と関連自己抗体を記述し、免疫電気泳動法は臨床所見と疑う疾患名を書かなくてはなりません。難しそうに思われますが2問においては前述の「4号免疫血清学テキスト (日本臨床検査同学院)」からそのまま問題が出題されるので、暗記してしまえば確実に満点を取ることが可能です。

資格を取得するにあたり、当時は主任になり2年目で業務に追われながら第47回国臨協関信支部学会の分科会資料作成など勉強時間の確保には苦戦しました。しかし資格を取得することで自分に対する自信や業務に取り組む姿勢は、以前より増したと強く感じています。

最後になりますが、この記事を読んで二級臨床検査士 (免疫血清学) を取得目標にいただければ幸いです。





# 認定資格で LEVEL UP



## 2級臨床検査士を取得して(呼吸生理学)

NHO 東京病院  
呉 麻子



東京病院は呼吸器科を専門としており、年間約19000件の様々な呼吸機能検査を実施しています。呼吸機能検査のうちスパイロメトリーは患者さんの最大限の協力を得ることが前提ですが、検査者の努力と経験はもちろんのこと、特に重要なのが患者さんに歩み寄る姿勢だと思えます。これらのことを検査者一人々々が高く維持していないと最良の検査結果は得られず、バラツキが大きい結果となってしまうと思えます。

呼吸器専門病院に勤めるものの責務として臨床側へ根拠あるデータを返せるよう検査の質を担保したいと強い思いを持ち、そのためには2級臨床検査士 呼吸生理学を取得することが一番の近道であると思ひ挑戦しました。

2015年受験当時の試験対策に用いた参考書ですが、呼吸機能検査ガイドライン(出版元:日本呼吸器学会)や肺機能テキスト(文光堂)を参考にしながら勉強していました。しかし呼吸インピーダンスや呼気NOガス分析等の検査を導入していない施設の方は、これらの検査機器や方法が紹介されている呼吸機能検査技術教本(JAMT技術教本シリーズ)や呼吸機能検査(医学書院臨床検査10月・増刊号)でも理解しやすいのではないかと思います。

試験には筆記と実技がありますが、筆記試験は過去問題集をじっくり解き、それに付随した呼吸病態生理が理解出来れば対応可能だと思えます。口頭試問は酸素解離曲線について、FRC、DLCO、CV等各測定項目の原理や測定方法、臨床的意義を問われ、日臨技のフォトサーベイのような問題です。血ガスについても同様です。実技試験はVC、FVCを被検者に対して実際に行います。普段使用していない機器を扱うこともあると思えますが、グループごと事前に練習の時間が設けてあり、業者の方も待機しているため積極的に取り組めば安心して臨めると思えます。日本臨床検査同学院で開催されている実技研修も参加しても参考になりました。後は常に日常検査にてガ

イドラインを遵守し、妥当性や再現性、アーチファクト等を判定することが一番成長出来るのではないかと思います。

資格を取得して良かったと思ったのは、呼吸機能検査のある治験に参加する際に全く困らなかったことです。治験であるためデータの信頼性は絶対ですので、勉強して根拠を持って検査していることで自信にも繋がりました。また検査室のレベルアップを図るために主任に協力して頂きながら全ての呼吸機能検査についてガイドラインに則って測定することを取り入れ、スタッフの入れ替わりも含め検査者全員のトレーニングを行いました。何年かそのようにしていると、当時の院長先生より「当院の呼吸機能検査はどこに出してもいいデータで信頼している」と評価された言葉を頂けた時は、とても嬉しかったのを覚えています。

またこの資格を取得したことで責任感が向上し、改めて呼吸機能検査の危険性について考える機会となりました。正確なデータを得るには状態の悪い患者さんに対してもつらい努力をさせなくてはならない検査であり、場合によっては意識を失ってしまうこともあります。そこで患者急変時対応マニュアルを整備し、ロールプレイング研修を行い国臨協関信支部学会にて発表する運びとなりました。現在では肺機能検査室に緊急呼出ベルを設置し、患者急変時にはいつでもスタッフを集められる体制となっています。そして患者負担軽減や肺機能検査時間短縮のために、ガイドラインに則り東京病院独自の中止基準を設ける等新たな取り組みを行っています。また新型コロナ感染防止として飛沫対策を施し、独立した肺機能検査室の設置をする等自信を持って業務に取り組めるようになったと思えます。

最後になりますが、資格取得や業務改善にご協力下さった全ての方々に感謝を申し上げますとともに、これを機に呼吸生理の資格に興味を持たれた方が、試験に挑戦し呼吸機能検査をステップアップさせることに繋げて欲しいと願っています。



# 会員のひろば

## 私の趣味について

NHO さいがた医療センター  
水澤 望



今回は私の長年の趣味の裁縫のことについて書こうと思います。つい最近、ミシンを買い替えたこともあり、これからもずっと続けていきたいと思っています。

私が裁縫に興味を持ったきっかけは、私の母が七五三の時に着るドレスを手作りしてくれたことでした。ただの布でしかなかった材料が母の手にかかると、みるみるうちにドレスに仕上がっていくのを見ていて、子供の目線ではまるで魔法のようなものに見えたことがきっかけでした。

とはいっても、最初から裁縫ができるわけもなく、母のように手先が器用でもなかったので、裁縫の技術を身に着けるのは一筋縄ではいきませんでした。裁縫を本気で勉強し始めたのは中学生の頃で、簡単な小物を作ることから始めたのですが、出来栄えがあまりよくなかったことがとても悔しかったことを覚えています。転機が訪れたのは高校生の頃で、授業を選択する際に「裁縫の検定試験の取得」を目指す授業があったので、それに飛びつくように授業を選択しました。授業が始まると、正直ついていくのが精一杯でしたが、この授業のおかげで色々なものを作れるようになったので、とてもいい経験だったと思います。

最近では自分のものだけではなく、姪や甥に向けて子供服も作るようになりました。二人に同じ布をつかってお揃いで作ったり、スタイやマスクといった小物を作ったり、ミシンで刺しゅうを入れたりして楽しんでいます。

今、私が使っているミシンは2台あり、ロックミシンとコンピューターミシンの2台を使っています。ロックミシンは布の端をかがるように縫うのが得意なミシンで、4本の糸を2本の針を使って、縫い目を編むように縫っていくのが特徴です。このミシンのいいところは、ニットのように伸縮する素材や、チュールやオーガンジーといった薄い素材を突っ張ったり、たるんだりせずにかがり縫いをすることができる点です。伸び縮みする生地や薄い生地は扱いが難しく、普通のミシンで縫うと、生地の伸縮に耐え切れずに糸が切れたり、糸調子が上手くいかずに縫い目が突っ張ってしまうと、ふとした拍子に布の方が耐え切れずに破れてしまうこともあります。そうした生地でもトラブルを起こすことなく綺麗に縫うことができるので服作りには欠かせない一品です。



次に、コンピューターミシンですが、これは様々な縫い方ができ、糸調子も自動でしてくれるので、いろいろな素材に対応できるミシンです。真っすぐ縫うだけでも何種類もの種類があったり、ボタンホールを自動で作れたり、まつり縫いやニット縫いといった実用縫いができたり、刺繍まで自動でできる優れものです。このミシンのおかげで今まで扱えなかった厚地の素材に挑戦したり、刺繍を服に入れるなど、作れるものの幅を大きくすることができました。

ここまで裁縫について書かせてもらいましたが、私自身も腕が未熟なので精進の毎日です。ですが、簡単なものであっても自分の作品が完成した時の達成感は何にも代えられないものです。昨今の事情で外出が思うようにいかない中、家の中でできる趣味の一つとして、これからも続けていきたいと思っています。



## 監査報告

NHO 下総精神医療センター 山崎正明  
NHO 下志津病院 益田泰蔵

支部規約第 17 条に基づき、10 月 24 日（土）NHO 埼玉病院において、令和 2 年度前期分の会務および会計について監査を実施しましたので、その内容について報告いたします。

当日は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、支部からは岩崎支部長と岡村理事（会計担当）の 2 名に対応いただきました。

会務については COVID-19 感染拡大の影響により、第 48 回定期総会にて承認された事業方針のほとんどが止むを得ず中止となりました。各地区会との連携、支部主催研修会、ビアパーティー等の文化活動など、支部と会員間の貴重な交流機会が失われたことは誠に残念でした。

定期の常任理事会も Web 会議となっている状況下で、第 48 回関信支部学会が史上初めて非集合型形式で開催されました。演題数は 14 と若干少な目でしたが、演者の皆様におかれましては短期間で抄録を仕上げ、音声入り Power Point データを作成されたことに感心いたしました。学会関係者全員が初めての経験と思われ、途中で様々な困難があったかと拝察いたしますが、学会賞選考委員・学術委員会・支部役員が一丸となってやり遂げられたことに敬意を表したいと思います。

会計については、予期せぬ出費が重なるなど複雑な事情があったと考えますが、帳簿、領収書類、通帳を照合させていただき、特に問題無く適正に処理されていることを確認いたしました。

その他としまして、ラミネート加工を施した永久保存版の会員証を発行するといった新たな工夫も見られました。また、今後の活動については学術委員会に関するアンケート調査の実施や、ビデオ会議システムを用いた研修会も検討されているようです。

未だ COVID-19 が終息する目途が立っておらず、今後も岩崎支部長はじめ支部役員の方々には難しい活動となることが予想されますが、「全ては会員のために」を合言葉に引き続きご尽力くださいますようお願いいたします。

## 人事異動

（令和 2 年 10 月 2 日～令和 2 年 11 月 1 日付）

氏名	新施設名	新職名
10 月 14 日付 採用 與謝野 剛	東京医療センター	非常勤

（7 月 31 日～10 月 1 日分 追記分）

氏名	旧施設名	旧職名
7 月 31 日付 退職 矢野 美香	災害医療センター	非常勤
氏名	新施設名	新職名
8 月 20 日付 採用 山田 桐子	霞ヶ浦医療センター	非常勤
氏名	新施設名	新職名
9 月 7 日付 採用 小坂 諭	東京医療センター	非常勤
氏名	新施設名	新職名
10 月 1 日付 採用 大石なつみ 横瀬 歩	災害医療センター 国立がん研究センター中央病院	非常勤 非常勤

## 令和 3 年度国臨協関信支部 役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 久間 修平  
役員推薦委員 竹内 智明  
役員推薦委員 山崎 剛

令和 3 年 4 月の国臨協関信支部定期総会において役員改選を行います。

つきましては、国臨協関信支部役員推薦規定第 3 条により役員を公募いたします。

公募用紙は関信支部 HP の『関信支部とは／関信支部規約類』より「関信支部役員応募・推薦届出用紙」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の提出先に郵送またはメールにて書類を提出してください。なお、自薦であっても会員 1 名の推薦人（役職は問わない）を必要としていますことを申し添えます。

締め切り：令和 3 年 2 月 26 日（金）

提出先：〒311-3193

茨城県東茨城郡茨城町桜の郷 280

独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター

臨床検査科 久間 修平

E-mail : kyuma.shuhei.zp@mail.hosp.go.jp

## 編集 後記

明けましておめでとうございます。

with コロナの新年を迎え、初詣をオンラインで参拝した会員もいることでしょうか。個人的には今年には人間味のある生活が戻ることを願うばかりです。さて、関信支部ニュースにおいては、前号から 3 つの新しいコーナーが始まりました。交流会や勉強会などが開催困難なため、他施設で頑張っている技師の紹介や、Case Study 等を作成しました。特に若い世代の会員への刺激や学びに役立てていただけると幸いです。昨年下火となっていた資格試験や関信支部学会も今年は盛り返してくること必至です。若い技師の皆さん、今から準備していきましょう！ 広報 屋良



# Case study

COVID-19 感染症の影響で、研修会開催が困難な状況にあります。  
 新企画として「Case study」をお届けします。  
 皆様に役立てられるように心掛けます。  
 解答・解説は関信支部 HP に掲載いたします。

## True or False

この検査結果は真のデータ?それとも偽のデータ?

### Question 1

患者情報：【30歳代、男性】  
 5日前よりめまいが取まらず、経過観察の為入院

〈生化学〉

項目	5日前	当日	単位
ALB	2.4	1.8	g/dL
T-Bil	0.32	0.19	mg/dL
ALP	143	116	U/L
AST	33	17	U/L
ALT	16	9	U/L
γ-GT	14	13	U/L
LDH	138	103	U/L
BUN	6.1	3.7	mg/dL
Cre	0.25	0.21	mg/dL
Na	133	117	mmol/L
K	4.4	8.0	mmol/L
Cl	102	90	mmol/L

〈血球算定〉

項目	5日前	当日	単位
WBC	9.0	6.0	10 <sup>3</sup> /μL
RBC	4.57	3.38	10 <sup>6</sup> /μL
Hb	14.0	10.4	g/dL
Ht	39.9	29.9	%
MCV	87.3	88.5	fL
MCH	30.6	30.8	pg
MCHC	35.1	34.8	g/dL
Plt	265	203	10 <sup>3</sup> /μL

### Question 4

患者情報：【30歳代、女性】  
 職場の健康診断で肺炎を指摘され受診

〈生化学〉

項目	5日前	単位
TP	8.0	g/dL
ALB	4.7	g/dL
AST	22	U/L
ALT	36	U/L
γ-GT	26	U/L
Glu	97	mg/dL
UA	5.7	mg/dL
Cre	0.59	mg/dL

〈血球算定〉

項目	5日前	単位
WBC	6.8	10 <sup>3</sup> /μL
RBC	2.34	10 <sup>6</sup> /μL
Hb	11.1	g/dL
Ht	24.6	%
MCV	105.1	fL
MCH	47.4	pg
MCHC	45.1	g/dL
Plt	188	10 <sup>3</sup> /μL

### Question 5

患者情報【40歳代、男性】  
 既往歴：糖尿病

〈生化学〉

項目	5日前	単位
TP	7.6	g/dL
ALB	5.1	g/dL
AST	10	U/L
ALT	17	U/L
LDH	166	U/L
γ-GT	79	U/L
CPK	77	U/L
Glu	1065	mg/dL
UA	15.8	mg/dL
BUN	33.6	mg/dL
Cre	1.40	mg/dL
TG	887	mg/dL
LDL-C	209	mg/dL
Na	124	mmol/L
K	6.0	mmol/L
Cl	86	mmol/L

〈血球算定〉

項目	5日前	単位
WBC	10.9	10 <sup>3</sup> /μL
RBC	5.29	10 <sup>6</sup> /μL
Hb	16.5	g/dL
Ht	44.2	%
MCV	83.6	fL
MCH	31.2	pg
MCHC	37.3	g/dL
Plt	297	10 <sup>3</sup> /μL

### Question 2

患者情報：【5歳、女児】  
 喘息発作のため入院

〈生化学〉

項目	5日前	当日	単位
TP	7.3	7.4	g/dL
ALB	4.0	4.2	g/dL
ALP	201	111	U/L
AST	14	20	U/L
ALT	12	15	U/L
γ-GT	16	18	U/L
LDH	194	205	U/L
Na	135	134	mmol/L
K	3.7	15.2	mmol/L
Cl	99	98	mmol/L

〈血球算定〉

項目	5日前	当日	単位
WBC	7.0	7.2	10 <sup>3</sup> /μL
RBC	4.45	4.62	10 <sup>6</sup> /μL
Hb	13.6	14.0	g/dL
Ht	40.2	40.5	%
MCV	90.3	87.7	fL
MCH	30.6	30.3	pg
MCHC	33.8	34.6	g/dL
Plt	293	310	10 <sup>3</sup> /μL

### Question 3

患者情報：【10歳、男児】  
 気管支炎のため入院

〈生化学〉

項目	5日前	当日	単位
TP	7.4	7.4	g/dL
ALB	4.8	4.9	g/dL
AST	40	39	U/L
ALT	25	22	U/L
LDH	366	353	U/L
Na	134	135	mmol/L
K	4.2	7.5	mmol/L
Cl	105	104	mmol/L

〈血球算定〉

項目	5日前	当日	単位
WBC	10.0	9.5	10 <sup>3</sup> /μL
RBC	4.99	4.97	10 <sup>6</sup> /μL
Hb	14.3	14.4	g/dL
Ht	41.9	41.9	%
MCV	83.9	84.3	fL
MCH	28.6	29.0	pg
MCHC	34.1	34.4	g/dL
Plt	385	391	10 <sup>3</sup> /μL



ご質問は関信支部までご連絡ください  
 Mail:kanshin@kanshinshibu.org

中嶋菜緒美 (NHO 下志津病院) 作成  
 松林秀弥 (関信支部学術委員 / 国立がん研究センター中央病院) 監修

解答・解説は関信支部HPに1月22日より掲載します!